

ヘルスプロモーションとヘルスケアビジネスの両輪を回す未病専門指導師の役割と責任

西根英一

株式会社ヘルスケア・ビジネスナレッジ 代表取締役社長、事業構想大学院大学 客員教授、
千葉商科大学 特命教授、一般社団法人日中健康寿命促進協会 日本代表理事

■日本の医療の未来が託される未病専門指導師

医療の世界が「治療」から「予防」へと大きくパラダイムシフトを起こすなか、これまで「治療」の現場にいた医師は“未病医学認定医”として、薬剤師、看護師、栄養士、臨床検査技師らはその資格をベースに新たに“未病専門指導師”という使命をもって、「予防」の現場に参画し始めている。多職種からなる未病専門指導師の活動の範囲は広く、この「未病」に「対策」という言葉をつけると、地域・職域・学域におけるヘルスプロモーション（未病対策）での役割と責任が生まれ、「未病」に「産業」という言葉をつけると、商品・サービス・施設といったヘルスケアビジネス（未病産業）での役割と責任が生じる。重要なのは、厚労省が指示する未病対策と経産省が支持する未病産業は互いに共創し、補完する関係にあることである。具体的な展開として、地域では地域包括ケアが、職域では健康経営が、その共創&補完の舞台となる。

近い将来、病院をはじめとした医療機関の役目が変わったり、製薬会社が創業の出自である“製薬”を企業名から外したりする先進的な動きがみられることだろう。その先の延長線上に現れるのは、病気でも健康でもない人を対象にした予防医療機関「未病院」であったり、発症前の未病状態を健康な状態に戻す薬「未病薬」かもしれない。（予防医療サービス「未病相談」は、健康サポート薬局がその一部の機能を担う形ですすでにスタートしていると解釈できる。）

未病専門指導師に日本の医療の未来が託されている。となれば、未病専門指導師は、ハコの中でヒトを待ち、モノを与えたり、コトを施したりする人たち（医療機関で患者を待ち、薬を与えたり、治療を施したりする人たち）ではなく、「みつけて・つなぐ」ひとたちでなければならない。未病を「みつける」にも、ソリューションに「つなぐ」にしても、民間企業との連携や民間サービスとの連動が発生することが容易に想像できることから、未病専門指導師にはヘルスプロモーションとヘルスケアビジネスのいまで言うところの「兼業」スタイルが求められることになる。まさしく時代が生んだ資格として、未病専門指導師が存在するのである。

■未病専門指導師による意思決定支援

未病という“ゆらぎ”の身体的状態には、健康消費行動にさらなる“ゆらぎ”の振幅が生じやすい。そのため、“ゆらぎ”に対する意思決定支援が未病専門指導師の最大の価値として期待される。意思決定支援のための要件には、(1)標準化する、(2)個別化する、(3)最適化する、の3つがあげられる。これらを要件に未病専門指導師の役割と責任を定義すると、「エ

ビデンスに担保された標準化を基盤に、未病の身体的“ゆらぎ”状態に対して個別化し、健康消費行動の関心・認知の“ゆらぎ”状態に対してさらに最適化して、“(未病を) みつけて・(ソリューションに) つなぐ”を実践する」という文脈が未病専門指導師の役割モデルとして提案されよう。未病者のニーズから発想したヘルスプロモーション(未病対策)の展開とヘルスケアビジネス(未病産業)の発展に、未病専門指導師の大いなる活躍の場が用意されている。

プロフィール

ヘルスケア(健康、医療、美容)のマーケティング戦略とコミュニケーション設計の専門家。厚労省の「健康日本21」推進室長として、“健康寿命の延伸”に係る調査分析、戦略策定、世論形成を指揮。経産省の「ヘルスケア産業創出」事業、「ヘルスケア人材育成」事業、複数の自治体の「未病対策」事業、「未病産業」事業等の戦略顧問やアドバイザーを務める。大塚グループ、電通グループ、マッキヤン・ワールドグループ(CKO 最高知識責任者と顧問)を経て、現在、株式会社ヘルスケア・ビジネスナレッジ 代表取締役社長、事業構想大学院大学 客員教授、千葉商科大学 特命教授、琉球大学 非常勤講師、一般社団法人日中健康寿命促進協会 日本代表理事。

